

# 平成29年度 施策評価表

課・グループ名	生涯学習課社会教育グループ
---------	---------------

作成年月日：平成30年9月28日

<b>施策名</b>	3-(5)-③ 読書活動の充実		
<b>1. 施策の現状分析及び展開方向</b>			
<b>政策・施策の体系</b>	大項目	中項目	小項目
	3. 地域に根ざした教育と文化の高いまちづくり	(5) ふるさとの記憶を伝える芸術・文化活動の推進	③読書活動の充実
<b>①施策のねらいと展開方向</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 読書活動の活性化を図るための環境整備や関係機関・団体と連携した読書活動の充実に努めます。</li> <li>● 「南幌町子どもの読書活動推進計画」の推進に努めます。</li> </ul>		
<b>②施策の現状と課題</b>	現 状	課 題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生涯学習センター図書室を拠点として、関係機関・団体や施設との連携により、読書活動を推進しています。</li> <li>● インターネットやゲーム機器等の様々な情報メディアの発達普及や子ども達を取り巻く生活環境の変化等により「子どもの読書離れ・活字離れ」が指摘されています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 読書は感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人間性を育むために極めて重要なものであることから読書に親しむ環境を充実することが必要です。</li> <li>● 「子どもの読書離れや活字離れ」を改善するため、早い段階から読書に親しむ環境を計画的に整備することが必要です。</li> </ul>	

<b>2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況</b>								
<b>① 成果指標</b>	設定の意図			まちづくりの成果指標名			数値化	
	読書活動の拠点である生涯学習センター図書室の利用促進を図るため、成果指標として設定。			成果指標 (総合計画・施策評価)			○	可能
				A 図書室蔵書数				不可能
				B 図書室貸出冊数				未計測
				代替指標 ※成果指標がない場合				指標の設定
						可能	不可能	
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。								
<b>② 指標データ</b>	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由	
		H26	H27	H28	H29	H33		
A 目標	冊	30,000	35,000	42,000	48,000	57,600	目標の蔵書には達しなかったが、計画的な図書の購入や寄贈の依頼により、達成できる範囲である。	
A 実績	冊	27,721	35,746	41,918	47,195			
A 達成率	%	92.4	102.1	99.8	98.3			
B 目標	冊	22,000	26,000	30,000	32,000	34,000	蔵書の充実や夜間開館などの利用者へのサービスが充実し、貸出冊数が増加した。	
B 実績	冊	10,565	30,945	30,982	35,646			
B 達成率	%	48.0	119.0	103.3	111.4			
<b>評価視点</b>		<b>評価結果</b>				<b>理由、課題・問題点</b>		
<b>③ 施策の達成状況</b>		A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)				<b>施策の達成度</b>	蔵書が充実したことやインターネット予約、夜間開館などによる利用者へのサービスが定着してきている。	
		B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)						
		C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)				<b>A</b>		
		D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)						

### 3. 施策を構成する事務事業の評価

<b>【種類】</b> 事務事業の種類	<b>【必要性】</b> 事務事業の必要性	<b>【妥当性】</b> 町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果											施策への 貢献度 <高い> <普通> <低い>						
事業 番号	事務事業名	種 類	所 管 課 名	成 果 指 標	評価年度(H29)		事 務 事 業 の 内 容	必 要 性	妥 当 性	事 務 事 業 評 価 結 果 (方 向 性)		事業費(千円)					
					目 標	単 位						H29実績	H30予算				
					実 績												
1	読書活動推進事業	(1)	生涯学習課	①貸出冊数 ②図書室読み聞かせ参加者数	① 32,000	冊 人	①生涯学習センター図書室の充実 ②図書室蔵書の巡回 ③図書室読み聞かせ事業等の実施	Ⅱ	Ⅰ	1  現状のまま継続	10,946	高い					
					② 550								11,586				
2					① 35,646	冊 人											
					② 533												
3																	
年度別施策全体の事業費合計(千円)																	
											H29事業費	10,946					
											H30予 算	11,586					

②H30に実施した新規事務事業					
	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H30予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果		理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	事業構成の 妥当性  A	図書室の運営や事業が充実することにより、町民の読書活動の活性化が図られるため事業構成は妥当である。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)		
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)		
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)		

4. 今後の方向性 ※外部評価 (行政評価委員会)										
①総合評価 (今後の展開、 事業の見直し等) 委員会評価	【評価】	事業の 方向性  優先度 A~D (ランク)	事業番号						平成30年度以降 の予算の方向性	
	特に課題とすべき指摘事項はない。		A							
			B	1						拡大
			C							○ 維持
			D							縮小